

1 . 福井臨海工業用水道事業の現状

福井県臨海工業用水道事業は、テクノポート福井（福井臨海工業地帯）への進出企業に工業用水を供給する目的で、昭和48年度より工事に着工し、昭和53年度4月から一部給水を開始しました。そして昭和59年には、当時地下水の塩水化に悩まされていた九頭竜川右岸（福井市二日市および山室町）の繊維工業団地を給水区域に編入するなどの事業変更を行い、現在に至っています。

平成13年3月現在、福井臨海工業用水道は日量約30,200m³を供給しており、また、その水源は九頭竜川の表流水で、日最大の取水可能量は約33,700m³であります。

表 - 1 【テクノポート福井の現状（H13.3現在）】

項目	内容	備考	
全体面積	12,357千m ²		
産業用地面積	7,312千m ²	売却予定面積	
売却済面積	6,615千m ²	売却率 進出企業数 操業企業数 工業用水供給企業数	90.5% 78社 66社 43社
未売却面積	697千m ²		

2 . 工業用水の需要見込みと将来計画

1 平成7年需要予測

福井県臨海工業用水道の将来の需要量は、将来工業用水を使用する用地を想定し、実績の使用水量をもとに予測しました。また、繊維工業団地については、地下水水源から河川水への転換分を加えました。

この結果、将来不足する日量約50,000m³を足羽川ダムに参加し確保することにしました。

2 平成13年需要予測

昨今の経済情勢の悪化、環境ISO等の進展により、各企業は水の循環再利用等水使用の合理化に努めており、工業用水需要は伸び悩んでいます。

そこで、改めて企業に対し将来の需要量調査を実施したところ日量約37,900m³となり、これに未売却地等の需要見込み日量約4,300m³を加えると、将来の需要量は日量約42,200m³となりました。

この結果、現行水利権を上回る需要量は、日量約4,000m³から約8,000m³となりますが、損失水量を考慮してもこの水量であれば企業の更なる水使用の合理化や既存水源の有効活用等で対応が可能と判断しました。

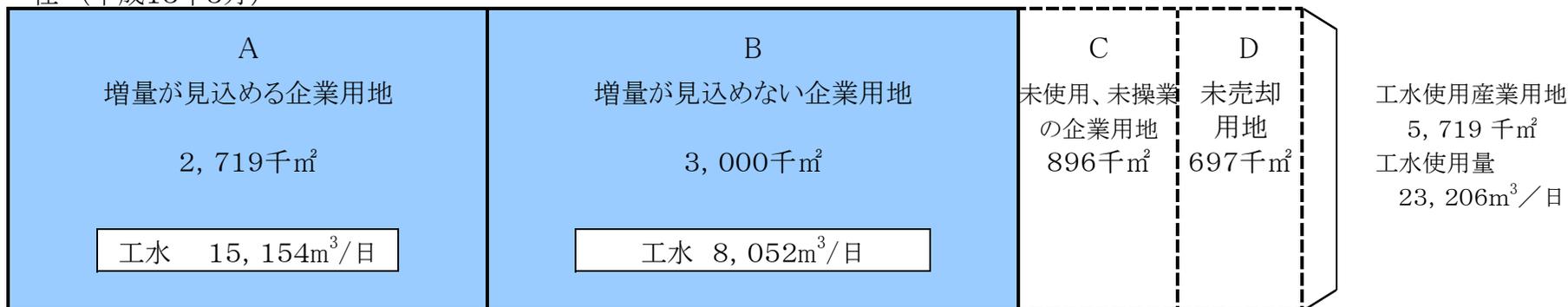
表 - 2 【福井臨海工業用水の需要見込み】

(単位：m³/日)

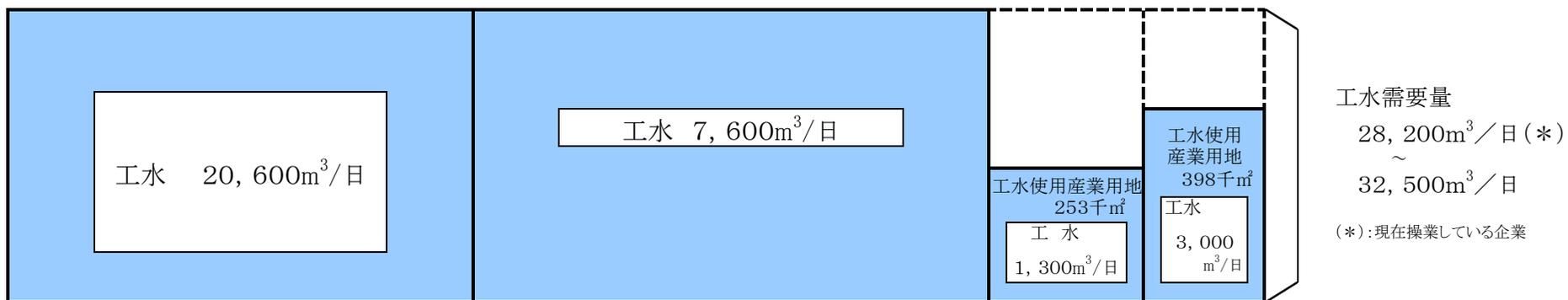
種 別	内 訳	平成7年需要予測	平成13年需要予測
テクノポート福井 の 使 用 水 量	現在の使用水量	約 20,000	約 23,200
	増量見込量	約 48,000	約 5,000～約 9,300
	計	約 68,000	約 28,200～約 32,500
繊維工業団地	現在の使用水量	約 7,400	約 7,000
	増量見込量	約 2,600	約 2,700
	計	約 10,000	約 9,700
使用水量合計		約 78,000	約 37,900～約 42,200
取 水 量		約 84,000	約 40,700～約 45,300
既 得 水 源	九頭竜川表流水	約 33,700	約 33,700
必 要 水 源	既存水源の有効活用等		約 7,000～約 11,000
	足羽川ダム	約 50,000	0

福井臨海工業用水道の需要見込み

① テクノポート福井
現在（平成13年3月）



将来（需要量調査等に基づく予測）



- ② 右岸繊維工業団地 現在、7,040m³/日を使用していますが、地下水の転換分を加えて9,700m³/日に達することが見込まれます。
- ③ 需要見込量 (テクノポート福井の需要見込量) + (右岸繊維工業団地の需要見込量)
= 32,500m³/日(28,200m³/日)+9,700m³/日 ≒ 42,200m³/日(37,900m³/日)

(*): 現在操業している企業